

SGH 事業報告

平成 27 年度長野県長野高等学校 SGH 事業の概要

I	課題研究	→ I へ	
II	海外研修・国際交流	→ II へ	
III	グローバルな学びへの参加		
1	IOC-オリンピック記念館ネットワーク (OMN) 総会への生徒派遣		… 1
2	第 1 回長野県高校生プレゼンテーション大会		… 4
3	第 23 回スカウトジャンボリー参加		… 4
4	長野県海外進学講座		… 5
5	まちづくり意見交換会 市長と話そう～長野の未来～		… 5
6	小布施アカデミア		… 5
7	女子中高生のための学校 2015		… 6
8	小布施サマースクール H-LAB		… 6
9	ロータリー交流留学生の受け入れ		… 7
10	長野高等学校スーパーバイザー 遠藤守信氏との座談会		… 7
11	長野高等学校スーパーバイザー 矢高則夫氏との座談会		… 7
12	GO! 2018 総文祭 日韓アートアカデミー		… 8
13	グローバルマインド育成講座		… 8
14	第 10 回全国高等学校英語ディベート大会		… 9
15	第 7 回高校生英語ディベート大会 ウィンターカップ 2015		… 10
16	米国大使館副領事 ダナ・バンヒル氏の講演会		… 10
17	未来塾ながの in the Phillipines		… 10
18	トビタテ! 留学 JAPAN		… 10

Ⅲ グローバルな学びへの参加

1 IOC-オリンピック記念館ネットワーク(OMN)総会への生徒派遣

2年生2名

主催：エムウェーブ，長野市 期日：9月24日(木)～25日(金)

会場：リッチモンド(カナダ)

生徒派遣の経緯

昨年，長野オリンピックアリーナ（通称エムウェーブ）のオリンピック記念展示コーナーが日本で唯一のIOC（国際オリンピック委員会）公認のオリンピック記念館になるに際し，本校2年生2名が協力させていただいた。エムウェーブは，平成10年（1998年）に長野市を中心として開催された第17回冬季オリンピック長野大会に際し，スピードスケートのメイン会場として建設され，内部にはオリンピック記念展示コーナーが設けられている。IOC公認のオリンピック記念館になるためにはオリンピック記念館ネットワーク（OMN）への加盟が必要であり，エムウェーブを管理運営する株式会社エムウェーブと長野市は日本で最初のOMNへの加盟を目指し，今年度の総会で申請プレゼンテーションを行うこととなった。それに際し「長野オリンピック開催年に長野で生まれた（＝長野オリンピックを知らない）高校生」に，「長野の紹介をしながら，オリンピック・ミュージアムを通して世界のオリンピック開催地とつながることへの期待を語る」ことを託すことを本校に提案してくださった。本校はSGH事業としてこれに協力することとし，渡航費用面ではAOKIホールディングス様と本校同窓会の多大な援助をいただいた。

本校の取り組み

本校2年生に希望者を募集したところ12名が応募。主催者，英語ネイティブスピーカー等を交えての選考会を行い，間島晴樹，中島優里の2名を選出。以後，英語科を中心にプレゼンテーションの指導を実施。校内で2回の検討会を経，出発直前には関係者一同で壮行会を実施した。総会でのプレゼンテーションは成功を納め，加盟は無事に承認された。

総会でのプレゼンテーションについては，同行された株式会社エムウェーブ社長，土屋龍一郎氏から次のように伝えられている。

——長野からの二人の高校生のプレゼンが終わるとギャベ議長から「こんなすばらしいプレゼンテーションを聞いて誰が反対できるでしょうか？」との発議で万雷の拍手の中，全会一致でNagano Olympic MuseumのOMN加盟が認められました。彼らのプレゼンテーション能力，熱意が実ったのだと思います。

6月8日(月)	募集開始
6月19日(金)	募集締切 12名応募
7月16日(木)	選考会
7月21日(木)	選考結果発表
8月21日(金)	第1回プレゼンテーション検討会
9月4日(金)	第2回プレゼンテーション検討会
9月17日(木)	壮行会
9月23日(祝)	出発
9月24日(木)	OMN総会出席（～25日）
9月25日(金)	申請プレゼンテーション
9月26日(土)	オリンピック記念館等研修
9月27日(日)	帰国
9月29日(火)	帰国報告会

IOC-OMN 総会について

間島晴輝

9月24, 25日にカナダのブリティッシュコロンビア州リッチモンドで行われた、国際オリンピック委員会の中にある Olympic Museums Network という組織の会合に出席し、長野市のエムウェーブ内にある長野オリンピック記念展示コーナーのネットワーク加盟のためのプレゼンをしてきました。

自分たちの出番は会議1日目に回ってきました。場の雰囲気はまさに国際会議といった感じで、世界中から人が集まってきていたので多少なりとも緊張はしましたが、準備にそれなりの時間をかけたことと、座ったまま発言するという形式だったことから、自信をもって話すことができました。発表の後、チェアマンが長野の加盟を認める趣旨のことを述べた時には、初めて形だけではない、意味のあるプレゼンをしたという実感が湧きました。その後各国の人から感想を聞いてみたところ、内容が確実に伝わっていたようだったので良かったです。

現地のオリンピック関連施設の視察や公式の食事会のときなどには、各国の文化の比較や日本の学校の話などで盛り上がりました。英語が母国語である人が少なかったためだと思われませんが、口調は遅めで、円滑な意思疎通ができました。また、ともに会議に出席した日本オリンピック委員会や日本スポーツ振興センターの方々との会話を通して、国際社会という現場で活動することについて興味深いご教示をいただきました。自分の進路について、大きな参考になったと感じています。

最後に会議中に感じたことについて何点か書いておこうと思います。まず、時間の正確さに関しては日本に遠く及ばないということです。一応日程表が出ていたことには出ていたのですが、全くその通りには進んでおらず、その場その場で対応していました。時間の正確さは日本人が世界に誇れることだと思うので大切にしていきたいです。

次に、会議中居眠りをしている人が一人もいませんでした。日本では国会でも居眠りする人がいるくらいなのに、と思いました。前日夜遅くまで外出していたことから体力面でも驚きですが、やはり自分が参加するからには何としても有意義なものにしたいという姿勢の表れだと思います。‘inemuri’は世界の共通語になっているそうですが、そんなことは誇っても仕方がないので、日本社会は効率化を図っていくべきだと思います。参加者の一人は「居眠りしてしまうような会議に出る日本人は勤勉すぎる」と皮肉をおっしゃっていました。

また、これは最も重要なことですが、組織の発展についての議論の際、アジア勢の大半は黙って聞いているだけでした。これからの時代、様々な能力を持ち一人になる勇気をもつ人材を育成したところで、さほど影響のない民間レベルのプロジェクトの話なら良いかもしれませんが、国際社会を実質的に動かしていくにあたり、会議などの場で堂々と発言し欧米諸国と対等に渡り合っていくための実力と度胸を養わなければグローバル化は我々にとって不都合なことになってしまうと思いました。

今回の経験は大変貴重なものでした。機会をくださった土屋龍一郎さんと、資金面での援助をくださった方々、またすべての関係の方々には感謝しています。



IOC-Olympic Museums Network 総会参加報告

中島優里

私は平成 27 年 9 月 24 日から二日間、IOC-OMN 総会に参加させていただきました。今回の参加は「長野市の誇るオリンピック施設の OMN 加盟申請を、オリンピックの開催年に生まれた（＝長野五輪を直接体験していない）世代によってプレゼンをする」ことで目指したものでした。参加を通して学ばせていただいたことを主な三点にまとめご報告いたします。

一点目は、プレゼンテーションの準備を通して感じたことで、私は長野が大好きですが実は長野のことを良く知らないのだということです。長野五輪の年に生まれたのですから、その五輪についてよく知らないのは私の世代では珍しくないのかもしれませんが、しかし、プレゼンの準備で当時について話を聞いたり調べたりする中で、競技における数々の感動的瞬間も、五輪によってもたらされた長野の発展も私は何も知らないのだと気付かされました。大好きな長野なのに、見えているようで見えていなかったのだと思いましたし、だからこそ次世代に繋いでいくためにも五輪記念館の存在は重要なのだと思いました。ふるさとの良さを更に発見し、長野が好きだと改めて実感しました。

二点目は、学習の意義についてです。二日間を通して総会の会議の場はもちろんのこと、食事会の場でも、他国からの出席者の方々とお話しする機会がたくさんありましたが、思いの外私が彼らに話す話題がないということを感じました。話しかけられれば答えられましたし質問も多少なりとも出来ました、それ以上の踏み込んだ話を持っていくことが出来なかったのです。同世代なら学校の話も出来ましようが、一人の大人として深く話すことが出来る内容があまりに欠如しているのだと悔しさを感じ、そこに今までと異なる「学習の意義」を見出しました。また、出席者の多くにとって英語は母国語ではなく、発音に訛りがあったり文法も正確ではないことがあったりしましたが、堂々と意見を述べていたのがとても印象的でした。発音や文法を気にしすぎるあまりなかなか英語を話せずにいるのはもったいないことで、大学受験を目の前に控えた私たち高校生ですが、学習の意義は何か一時のためだけではなく、自らの人生を豊かにするためなのだと改めて教わりました。

三点目は、人と人との繋がりや有難さについてです。今回のプレゼンでは、機会をくださった土屋龍一郎氏や、ご指導くださいました先生方、家族を始めとし本当に多くの方に支えていただきました。総会では至らない私に親切に、優しくしてくださいました参加者の皆さんがいました。プレゼンのために計 130 枚もの長野の写真を送ってくれた友人たちや、前日に日本から応援の電話をくれた友人がいました。今回の経験は皆様の支えなくしてはあり得なかったものです。本当に感謝しています。

私は今、大学で社会や政治経済について学び、将来はふるさとのより良い未来のために何か少しでも貢献できたらと考えています。今回この機会を通して得た経験は、これから私が目指し進む道において必ず力になるものと確信しています。



OMN 議長の Gabet 氏、IOC の Wo 氏とともに。



JOC の松丸喜一郎常務理事、同行されたエムウェーブ社長土屋龍一郎氏とともに。

2 第1回長野県高校生プレゼンテーション大会

2年生2名

主催：長野県高校生プレゼンテーション大会実行委員会

期日：6月14日(日)

会場：諏訪市文化センター

講師：山田 崇氏（長野県塩尻市職員 空き家から始まる商店街の賑わい創出プロジェクト nanoda 代表）

審査員：伊藤学司氏（長野県教育委員会教育長）

野原莞爾氏（綿半ホールディングス株式会社代表取締役社長）

金子ゆかり氏（諏訪市長）

児玉光史氏（株式会社地元カンパニー代表取締役）

地方の衰退に危機感を持った諏訪地区の高校生たちが企画した、高校生が地域活性化に向けたアイデアを競い合う大会。呼び掛けに応じ、諏訪地方など県内外の17チームが参加。本校からは、課題研究で上田の地域づくりを研究対象としている2年生2名が「大河ドラマ真田丸と上田～私たちができることを考えてみた～」で参加。入賞は逃したが、信州が舞台となる2016年のNHK大河ドラマ「真田丸」の制作関係者に地元・上田市などの映像を多数送りドラマに反映してもらおうという構想を語り好評を博した。



3 第23回世界スカウトジャンボリー参加

1年生2名

主催：世界スカウト機構

期日：7月27日(木)～8月8日(土)

会場：山口県きらら浜

4年に1度開かれる大会。世界スカウト機構は、世界で3000万人が参画する世界最大の青少年運動組織であり、世界155の国と地域から約3万4千人の青少年が集まり、約2週間にわたって、キャンプをしながら「世界の仲間」と体験を共有する。今年では日本での開催であったため参加制限が

設けられた中、本校の2名は選考を通過して参加がなかった。

参加した二人は、同じ方向性を持っていれば異なる国家、社会、文化に属する相手とも通じ合えることを体感する一方、さらに踏み込んだ内容を語り合うためには英語力を鍛える必要があることを痛感するとともに、素晴らしい思い出を胸に刻んだ2週間であったようだ。

4 グローバル人材育成事業*発信力育成プログラム 長野県海外進学講座 1年生2名

主催：長野県教育委員会 期日：7月26日（日）会場：深志教育会館（松本深志高等学校）

講師：NPO 法人留学フェローシップ「現役留学生による高校生の海外大学進学支援」からの派遣

グローバル化が加速する社会においてグローバル人材に要求される高度な語学力・コミュニケーション能力、主体性・積極性、異文化理解の精神等を高校生に涵養するための海外進学講座。留学経験者、海外勤務経験者、国際機関等の勤務経験者等による講話やワークショップ、相談会などが実施された。

海外進学に関して、都会と地方では情報量が全く異なるため、参加した生徒は初めて知ることが多く、また、経験者の話を聞くことで海外進学が身近に感じられたと語っており、たいへん有意義な体験であった。

5 まちづくり意見交換会【市長と話そう～長野の未来～】 2年生1名

主催：長野市企画制作部企画課 期日：7月31日（金）会場：長野市役所

長野市が第五次総合計画の策定に当たり、市民参画の一環として、社の様々な立場の人が集まり、市長と意見交換をし、将来の長野市のまちづくりに対する具体的な提案について、市民の視点からの提案を市政及び総合計画策定を進める上での資料として活用することを目的として開かれた高校生との意見交換会。

本校からはSGHスタッフの学年サブリーダーの工藤颯一郎さん（2年生）が参加し、課題研究での経験を踏まえ「もっと若者が現状を把握し、問題解決に向けて議論する場を設けてはどうか」という提案を述べた。問題の解決には多角的に問題を把握することが不可欠で、そのためには従来の「体験学習」や「社会問題の議論」では未来を担う人材育成には不十分で、もっと多方面からの視点で問題を解決しようとする経験が必要ではないかという提案であり、公共の場で意見交換をする貴重な場となった。

6 グローバル人材育成事業*発信力育成プログラム 小布施アカデミア 1年生10名

主催：長野県教育委員会 共催：小布施町 H-LAB 期日：8月2日（日）～4日（火）

会場：小布施町

講師：小澤 尚氏（(株)小澤設計計画室 計画設計アドバイザー）

大宮 透氏（慶應義塾大学 SDM 研究員・小布施町ソーシャルデザインセンター研究員）

長野県教育委員会が実施する「グローバル人材育成事業」の一つ。小布施町とH-LABの協力を得て、昨年の「善光寺アカデミア」に続く形で開催したプログラム。

長野県下各地から集まった40名近い高校生がグループに分かれ、H-LABに参加した海外の大学に留学中または留学経験がある大学生のアドバイスを受けながら、「世界に発信‘Obuse’の魅力」

のテーマの下、自分達で選んだ観点から小布施町各所でフィールドワークを体験し、小布施町の魅力や課題についてディスカッションを重ねてプレゼンテーションを行った。

本校からは1年生10名が参加したが、他校の仲間ともすぐに打ち解け、深夜まで議論を重ねる姿も見られた。最終日のプレゼンテーションも初めてとは思えないものが多く、その後の課題研究に大いに役立っている。



7 女子中高生のための学校 2015

1年生1名

主催：独立行政法人国立女性教育会館 期日：8月6日（木）～8月8日（土）
会場：独立行政法人国立女性教育会館（NVEC）

女子中高生が「科学技術にふれる」、科学技術の世界で生き生きと活躍する女性たちと「つながる」、科学技術に関心のある仲間や先輩とともに「将来を考える」ための機会として開催されるプログラム。2泊3日の合宿研修を通じて、女子中高生と科学研究者・技術者、大学生・大学院生等が少人数を単位に親密に交流し、理系進路選択の魅力を伝える。女子中高生の進路選択について、身近な支援者である保護者や教員向けプログラムも設定されている。

参加した生徒は、実際に理系の研究職として働いている方から、働く際の女性ならではの能力の発揮の仕方についての話を聞いて大きな感銘を受け、「男女共同参画社会」についてもさらに考える良い機会となったようだ。

8 小布施サマースクール H-LAB

1年生1名、2年生3名

主催：小布施町、長野県教育委員会、H-LAB 期日：8月14日（金）～20日（木）
会場：小布施町

H-LAB は「ボーダーを越えたりベラル・アーツ」をコンセプトに国境・世代を越えた交流による進路指導の新しい形を提唱する、教育・国際交流プログラム。H-LAB OBUSE は長野県内外の高校生、大学生、海外大学生が集う6泊7日の高校生向けサマースクール。ハーバード大生をはじめとする海外大学生による少人数授業、大学生・社会人と真剣に向き合う対話の場やワークショップなどが組み込まれている寄宿型サマースクール。

5月12日（火）に大学生実行委員2名が来校し、説明会を実施。約20名が参加した。18名が応募し、4名が合格、参加。

9 ローターリー交流留学生の受入**フランスより1名**

主催：長野ロータリークラブ 期間：平成27年8月～平成28年

昨年度、ロータリークラブの支援で長野市内の高校生がフランスに留学したのと交換で来日し、市内でホームステイをしているフランスの生徒を2年生に受け入れている。日本語はほとんどわからない状態であったが、穏やかで聡明な人柄で、周囲の生徒たちも自然に受け入れている。

台湾研修旅行を含め、学校行事に積極的に参加するだけでなく、本校での活動に加え、市内各地や他校でも様々な体験を重ねている。その積極的な姿勢や、異文化を理解しようとする姿勢は生徒に良い影響を与えている。また、日常的に英語を使う環が生じたことで、周囲の生徒にとって英語がより身近なものになってきている。

10 長野県高等学校スーパーバイザー 遠藤守信氏との座談会**～サイエンスへの導き～****2年生1名、1年生7名**主催：長野県教育委員会 期日：10月3日(土) 会場：長野県松本深志高等学校
講師：遠藤守信氏（信州大学工学部特別特任教授）

遠藤守信氏は、長野県教育委員会が、長野県の高次教育の中で新たな価値を創造し国際的視野に立って社会をより良くしていくことのできる人材を育成するために委嘱した「高等学校スーパーバイザー」のお一人。須坂市出身で、触媒気相法カーボンナノチューブの発見と開発で世界的に著名な研究者であり、2005年（平成17年）文部科学大臣賞、2008年（平成20年）紫綬褒章を受章されており、本校の運営指導委員としてもご助力をいただいている。

「スーパーバイザー」は、教員や保護者に対してだけでなく、生徒にも指導をいただくことができる。座談会形式で、直接、意見交換できるのが生徒にとって大きな魅力である。

初めに「サイエンスへの導き」と題した講演で、科学者を志した経緯やサイエンスの魅力、若者への期待などをお聞きし、その後、自由に意見交換を行った。生徒たちは、世界的に著名な科学者から直接にお話を聞くことで、教室で学ぶ科学の向こうに広がる広大な世界を感じ、また、受験のための科学がかえって「理科離れ」を助長しているのではないかというような、普段考えている疑問に直接答えていただくことで、自分で考えること、疑問を持つことの価値をあらためて実感したようだ。

11 長野県高等学校スーパーバイザー 矢高則夫氏との座談会**～グローバル社会と信州～****2年生2名**主催：長野県教育委員会 期日：10月31日(土) 会場：長野県上田染谷丘高等学校
講師：矢高則夫氏（共同通信社本社論説委員）

矢高則夫氏も長野県「高等学校スーパーバイザー」のお一人。飯田市出身でテヘラン・ヨハネスブルク支局長、ニューヨーク支局員として湾岸戦争、マンデラ政権誕生、米中枢同時テロを取材され、外信部副部長などを経て、2013年から現職の世界的ジャーナリストであり、本校の運営指導委員としてもご助力をいただいている。

初めに「グローバル社会と信州」と題した講演で、信州と社会のつながり、ジャーナリストが捉えるグローバル社会、信州の若者への期待などをお聞きし、後半では、グローバル社会をどのように生きていったらよいか、高校生との活発な質疑応答が行われた。本校から参加した2名はジャーナリズムに関心のある生徒であり、事件や事象の捉え方についても学ぶところが大きかったようである。

12 GO! 2018 総文祭 日韓アートアカデミー **1年生1名**

主催：第42回全国高等学校総合文化祭長野大会準備委員会事務局

共催：公益財団法人日韓文化交流基金

期日：10月25日(日)～31日(土) 派遣先：大韓民国



10月25日(日)	到着 オリエンテーション
10月26日(月)	関係機関訪問
10月27日(火)	関係機関訪問
10月28日(水)	高等学校訪問 共同制作 ホームステイ
10月29日(木)	高等学校訪問
10月30日(金)	ソウル市内見学
10月31日(土)	帰国

平成30年度に長野県で開催される全国高等学校総合文化祭での国際交流部門開催に向けて、美術・工芸分野での長野県と韓国との文化交流を目的に、両国の高校生が互いの国の学校生活やホームステイを体験し、共同で創作活動を行う事業である。

本校美術班の1年生が参加。11月20日(金)には、この事業で韓国から訪日した高校生崔さんと本校1年3組が交流した。

13 グローバルマインド育成講座 **1年生1名**

主催：長野県教育委員会 期日：11月2日(月)～4日(水)

会場：JICA 青年海外協力隊駒ヶ根訓練所

県内高校生がJICA 青年海外協力隊駒ヶ根訓練所において、協力隊の訓練等を実践的に体験することを通して、海外で求められる異文化理解・協働力・課題解決力等を育成する講座。30名を超える県内の県立高校の高校生が参加。

JICA 訓練所や協力隊員の皆さんの講義やネパール語の研修を受けるとともに、協力隊が実際に現地で行っているプロジェクトをモデルとした様々なワークショップやゲームを通じて、途上国の現状を理解するとともに自分のおかれている現状にも気づき、協働していく力を身につけた。

14 第10回全国高等学校英語ディベート大会

E.C.C班1, 2年生15名参加

主催：一般社団法人 全国高校英語ディベート連盟 期日：12月19日(土)～20日(日)
会場：岐阜聖徳学園大学岐阜キャンパス (岐阜市)

長野県は高校生英語ディベート大会発祥の地である(日本最初の大会は1992年の長野県東信大会)。全国大会の常連でもあり、県大会では毎年激戦が繰り広げられる。県大会3位で全国大会出場を果たした本校は快進撃を続けて「3位」入賞を果たし、1年生が「優秀ベストディベーター賞」を獲得した。

3位入賞
優秀ベストディベーター賞

2月8日(月)には班長以下1,2年生15名が長野県教育委員会伊藤学司教育長を表敬訪問して大会結果を報告するとともに模擬ディベートを披露した。

今年度の論題

日本国は、自衛隊の参加制限を緩和し、国際連合の平和維持活動に、より積極的に貢献すべきである。是か、非か。

Japan should contribute more actively to the United Nations Peacekeeping Operations by relaxing its restrictions for the Self-Defense Forces.



第10回大会特別ゲスト、アメリカのケネディ駐日大使と談笑。



15 第7回高校生英語ディベート大会 ウィンターカップ2016 E.C.C班1年生13名

主催：ウィンターカップ実行委員会 日時：平成28年2月14日（日）
場所：さいたま市立浦和高校



5位入賞

論題：EUは難民受け入れ拡大をするべきである

関東地区から英語ディベートの強豪校が集う大会のポリシーディベート部門で5位に入賞した。

16 米国大使館副領事 デーナ・バーンヒル氏の講演会 1年生51名

主催：米国大使館 期日：3月3日（火） 会場：本校社会科教室

米国大使館は、日本各地の高校生に米国への理解と関心を深めてもらうために地域の拠点となるような高校で講演会を実施しており、本校でも実施申込みを受け、3月に実施する「米国リーダー研修」の事前学習として実施することとし、ECC班の生徒と校内の希望者も参加した。

17 グローバル人材育成事業 未来塾ながの in the Philippines 1年生1名

主催：長野県教育委員会 期日：3月6日（日）～12日（土） 会場：セブ島（フィリピン）
募集人員：28名

実際に英語を使う体験を通して英語力を高めるとともに、国際機関での研修や現地の人々との交流を通して、未来の信州のリーダーとなる人材の育成を図るプログラム。本校から1名が参加した。

18 トビタテ！留学 JAPAN 1年生3名応募

主催：文部科学省

「トビタテ！留学 JAPAN」は、文部科学省が、意欲と能力ある全ての日本の若者が、海外留学をはじめとして新しいチャレンジに自ら一步を踏み出す気運を醸成することを目的として、平成25年10月より開始した留学促進キャンペーン。政府だけでなく、各分野で活躍されている方々や民間企業からの支援や寄附などにより、官民協働で「グローバル人材育成コミュニティ」を形成し、将来世界で活躍できるグローバル人材を育成しようとするプロジェクトである。

本校からは「アカデミック（テイクオフ）：留学期間が2～3週間で、海外の語学学校等のプログラムに参加し、外国語を用いて異文化交流を行う留学」「アカデミック（ショート）：留学期間が2週間～3か月で、海外の高等学校や大学のサマースクール等に参加し、外国語を用いて様々な専門科目を学修する留学」「アカデミック（ロング）：留学期間が4か月～1年で、海外の高等学校等に長期間通学し、外国語を用いて様々な科目を学修する留学」にそれぞれ1名ずつが応募している。